



農作業メモ

難防除雑草 帰化アサガオ類の防除

1 帰化アサガオ類の発生状況

帰化アサガオ類は、一度農地に侵入すると防除が難しい繁殖力が旺盛な外来種です。道路わきや遊休地、田畑に



写真1 大豆に巻きつくマルバルコウ

隣接した場所でも散見されています。

帰化アサガオ類はマルバルコウ、アメリカアサガオ、ホシアサガオ等複数の種類があり、いずれもほかの植物に巻きつきながら生長し、長期間にわたり次々と花を咲かせます。(写真1)

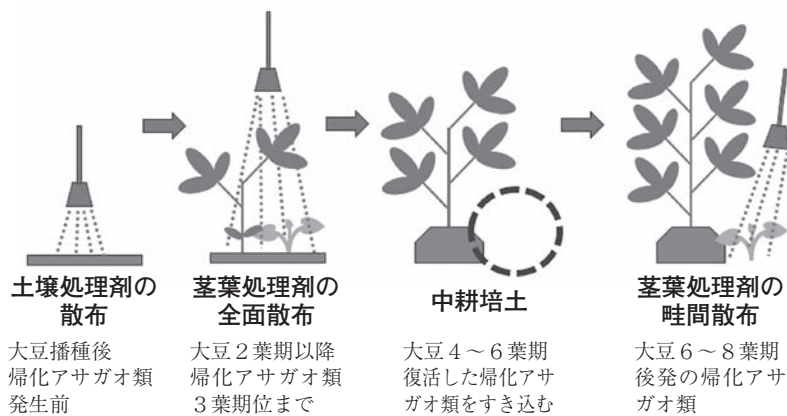
一株で数千から数万粒の種子を作り、繁殖します。種子の寿命は長く、湛水や低温になっても生存し続けます。

帰化アサガオ類は放置しておく、ほ場全体に広がり、作物を覆い尽くして収穫できなくなり、数年にわたって発生が継続します。

2 防除のポイント

帰化アサガオ類は侵入初期の防除が重要です。畦畔や農道脇等で帰化アサガオ類を見かけたら、花が咲き、種子ができる前に、根から引き抜いてください。種子ができていたら、種子を落とさないように袋に入れて処分します。引き抜いた株を放置すると、未熟種子が後熟して発芽力を持つため、引き抜いたらすぐに処分しましょう。

図【大豆ほ場での帰化アサガオ類の体系防除】(例)



除草剤の使用に当たっては、ラベルをよく読み、登録内容にしたがって使用しましょう。記載農業は2019年6月26日現在の登録状況に基づいています。

《大豆ほ場での防除対策》

大豆ほ場に帰化アサガオ類が侵入した場合でも、蔓化する前であれば体系防除で対処できます。播種後土壌処理をした後、大豆2葉期以降で、帰化アサガオ類が3葉期までのうちに、茎葉処理剤（アタックシヨット乳剤や大豆バサグラン液剤等）を全面散布し、帰化アサガオ類の生育を抑制します。残った帰化アサガオ類は、大豆4～6葉期以降に中耕培土により機械的に除去、または土中に埋没させます。大豆6～8葉期以降は、生長を抑制した帰化アサガオ類や後発の帰化アサガオ類に対してバスタ液剤等を畦間処理で使用する効果的です。

除草剤を使用する場合は、株元まで十分かかるように丁寧に散布する必要があります。

（大里農林振興センター農業支援部）